



八木正宣 ● やぎ・まさのぶ
税理士事務所 SBL 所長・税理士。
会計事務所等での勤務を経て平成
16年税理士事務所 SBL を開設。
企業支援と相続関連業務に強み。

基礎から身につく 財務の教室

最終回

今回のテーマ

運転資金と設備資金

今回は、運転資金の発生要因や所要額、設備資金の返済能力の見極め方について見ていきましょう。

Q1 運転資金は発生するの？

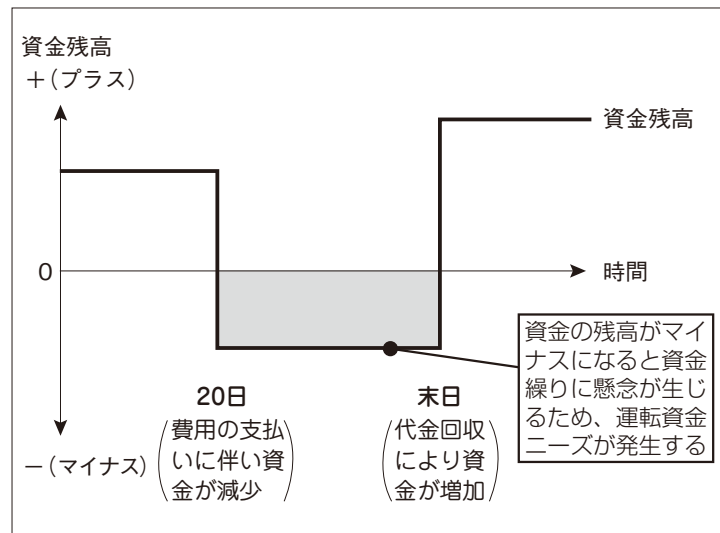
運転資金は、営業活動が必要となる「立替金」とよく表現されます。お金の流れに注目して企業の営業活動を見てみると「仕入↓在庫↓販売↑代金回収」というサイクルで説明できます。

このサイクルにおいては、販売先から売上代金が入金されるまでお金は入ってきません。この間に発生する、商品や材料の仕入代金や販売活動の費用などは立て替えておく必要があります。これらの立替金を運転資金といえます。

図表はある企業の資金残高の推移を表したものです。費用の支払条件は「末日締め・翌月20日」、売上代金の回収条件は「末日締め・翌月末日」となっています。毎月20日になると、費用の支払

いがあるため資金残高は減少します。そして、月末に売上代金を回収できれば資金残高は増加します。この支払日から回収日までの間、企業は支払った資金を立て替えることになり、この立替金が運転資金となります。企業が立替金を賄う余裕がなければ運転資金ニーズが発生するといことです。

●運転資金の発生要因



Q2 運転資金の所要額は算出するの？

運転資金の所要額を求める計算式は次のとおりです。この所要額は貸借対照表の勘定科目を用いて計算します。

運転資金 \parallel 売掛金等 + 棚卸資産 - 買掛金等

売掛金等は、商品等を販売したものの回収できていない代金のことです。現金商売でなければ、商品やサービスを売り上げても、その時点でお金は入ってきません。回収するまでの間、販売代金は売掛金等となり、回収されて初めてお金になります。つまり、売掛金等の金額だけお金を立て替えているといえます。

●買掛金等は減算する

棚卸資産とは商品等の在庫をいいます。企業はお金を払って商品を仕入れますが、その商品が売れるまでは棚や倉庫の中で在庫として保管され、お金になりません。つまり、在庫の金額についてもお金を立て替えているといえます。買掛金等は仕入代金の支払いを待ってらっている分をいいます。当面の間、支払いのためのお金は必要ありませんので減算します。

Q3 設備資金の返済能力はどのように検討すればいいの？

設備資金とは、企業が設備投資を行うのに必要な資金で、主なものとして「生産能力を増強するための工場建設や機械設備等の購入」や「生産能力を維持するための設備の修繕」があります。

設備投資では通常、多額の資金が必要なことから、金融機関から資金を調達するケースも多いでしょう。この場合、金融機関では設

備資金の返済能力について検討することが重要といえます。

●返済予定額を上回るか

設備資金の返済原資は次の算式によって求められます。

設備資金の返済原資 \parallel 留保利益 + 減価償却費 + 増資払込額 - 既存の借入金等元本返済額

留保利益とは、当期純利益から配当金支払額など利益処分による社外流出額を差し引いたもので、企業内部にプールされる金額です。減価償却費は、資金の支出を伴わない費用なので返済原資にプラスします。そのうえで損益計算書には記載されない項目で資金の流出入を伴うものを調整します。増資払込額は資金の流入、借入金等の元本返済額は資金の流出を伴うので、それぞれ加減算します。

通常、設備資金の返済期間は、その設備の法定耐用年数以内となります。返済期限までの毎年の返済原資が、設備資金の返済予定額を上回っているか確認する必要があります。

確認テストを解いてみよう

問題1

運転資金について述べた次の①～④のうち、誤っているものを選んでください。

- ① 売掛金等が増加すると、運転資金の所要額は増加する
- ② 棚卸資産が増加すると、運転資金の所要額は増加する
- ③ 買掛金等が増加すると、運転資金の所要額は増加する
- ④ 企業に運転資金を賄う余裕がなければ資金ニーズが発生する

問題2

次の①～④のうち、設備資金の返済原資に該当しないものを選んでください。

- ① 留保利益
- ② 配当金支払額
- ③ 減価償却費
- ④ 増資払込額